

社会民主主義 フォーラム青森 通信

NO.33 2024年 3月15日
フォーラム青森
〒030-0802
青森市本町3丁目3番11号
青森県平和労組会議気付
forum-ao2021@outlook.jp
080-5413-2848 (事務所専用 TEL)

社会民主主義フォーラム青森第4回定期総会報告



フォーラム青森は、3月2日アピオあおもりを会場に、第4回定期総会を開催しました。総会は、山名副代表の開会に始まり、議長に太田十和田市議を選出し、進行しました。

まず、主催者を代表して藤田代表のあいさつに続き、来賓として立憲民主党青森県連合田名部代表、青森県平和労組会議阿部議長から挨拶を受け、その後、今回初めてお招きした中央フォーラム中川事務局長から全国総会での発言の特徴と年内解散が予想される衆議院選挙の重要性が述べられました。とりわけ、フ

ーラム発足に際し、課題として改善を求めてきた立憲民主党の組織運営が全国的に改善に向かっていく。また、自民党の裏金問題で国民の怒りが沸き起こっている中でも立憲民主党を中心とした野党に政権担当を担う力量が乏しいとの世論を如何に克服していくのか？総会後の講演会で元毎日新聞編集委員の尾中香尚里氏が述べた「昭和の政治」「平成の政治」「令和の政治」を対比して立憲民主党が自らの主体性を維持したうえで野党連携を広げることだと指摘していると述べられました。

次に、活動報告、決算報告、監査報告、活動方針案、予算案の提案を受けて質疑が行われました。とり



提案する原子事務局長

わけ、予算案では大変厳しい財政事情を考慮し支部交付金の計上を見合わせたこと。また、それに伴い発足理念を維持しつつも立憲青森県連合との融合を含めてフォーラム青森のあり方を検討すると提案したことに議論が集中しました。特徴としては①支部の活動が出来なくなる、②財政難だから活動しないは許されない、③フォーラムを解散するために検討すると推察される、④立憲党員だけがフォーラム会員ではない。その他には日朝連帯委員会への組織加入が困難だと言われているが時間をかけて検討すべき、などです。

幹事会の答弁は、①財政事情を改善するためあらゆる角度から捻出の努力を行う、②組織解消ありきではない旨を述べて理解を求めました。

その後、報告・提案を拍手で確認。役員改選では代表はじめ全員の留任を確認。ただし三上武志特別幹事についてはご本人の意向を尊重し解任を提案して全体で確認。最後に蛭名副代表が総会で確認された活動を進めていくよう要請し閉会しました。(原子秀夫)



中川事務局長



田名部・立憲県連代表



渡辺会計担当



青森・芳賀さん



下北・奈良さん



山名副代表

写真で見る総会模様



青森・建部さん



十和田・杉山さん



太田大会議長

2024年度原水禁青森県民会議総会



新任の赤平事務局長

3月10日(日)、2024年度原水禁青森県民会議総会が、青森県労働福祉会館で開催されました。

総会では、昨年の活動報告があり、今年度の活動方針が提案されました。

ブロックの組織体制については、今後も協議を続けていくとともに、原水禁世界大会への参加や青森県集会の取り組み、原爆写真展(青森、弘前、八戸、十和田、他)の開催について確認されました。

役員改選では、2008年から16年に渡り事務局長を担っていただいた泉さんが退任し、自治労青森県本部として赤平さんが就任しました。

＜今後の日程＞

- 5/18 第1回幹事会
- 7/5～7 原爆写真展(青森市民美術展示館)
- 7/13 非核・平和行進青森県集会(青森市)
- 7月(未定) 原爆写真展(弘前、八戸)
- 8月 原爆写真展(十和田)
- 8月 原水禁世界大会(今年度も広島大会への参加とし、10名以上の派遣団としたい。)
- 2月 第2回幹事会

(佐藤康弘)

十和田支部が第5回総会



3月9日(土)、社民フォーラム十和田支部第5回総会があり、フォーラム青森から原子事務局長が参加しました。きめ細やかな報告と提案があり、「意義ナシ」との声があり、懇親会となりました。

(佐藤康弘)

今も終わらない原発事故と福島の実状



福島の現状を報告する武藤類子さん

3月10日(日)、青森市民ホールにおいて「2024年さようなら原発・核燃「3.11」青森集会が開催され、400名が結集しました。

その中で、三春町在住の武藤類子さんから福島の現状の報告がありました。

「今まさに原発回帰の動きがある。エネルギー庁は『(処理水だ)汚染水と呼ぶな!』とクレーム。小出裕章講演会で「原発汚染水はなぜ流してはいけないか」としたら、「風評加害は許せない」とのクレームが投稿された。除染土を「再生資材」と呼び、野菜を直接植える環境省の実証事業(飯館村)。子ども甲状腺がん裁判など取り組んでいるが、東電・経産省審議会委員および専門委員・最高裁・法律事務所などの人脈構図。報道機関・広告代理店を使って、原発回帰のための新たな「安全神話」作りが進められている。

ガンマ線を測るための測定器で、ALPS処理水(トリチウムはベータ線を出す)に当てて「針が振れません」と説明する東電社員。「大きな(エネルギー)課題については、多少の被害は構わない。」という意識・思想があるのではないか。

(文責:佐藤康弘)

今後の予定

- 3月 フォーラム青森幹事会
- 3月16日 原水禁福島県民大集会
- 3月20日 さようなら原発全国集会(東京)
- 3月23日 さようなら原発全国集会 in 宮城
- 4月6日 4・9反核燃の日全国集会
- 14時～ リンクステーションホール青森
- 5月19日 農業問題学習会(議員団会議で企画したが、会員対象とすることで調整中。)
- 講師は、谷口信和・東京大学名誉教授。
- 7月7日 政治学習会(100名以上の結集を)
- 辻元清美・立憲民主党参議院議員